



東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センター

東京都 総合周産期母子医療センター指定（2020年12月）



「こどもたちの健やかな明るい未来のために」

国際性溢れる東京都心の総合周産期母子医療センターとして

24時間365日、良質な母子医療に専心いたします。

私たちができること



最前線の小児・周産期 専門医療

首都圏の地域小児周産期医療の中核として、救急やリスクの高い症例に対応します。



産科と小児科が連携した 総合的なチーム医療

産科、小児科はもちろん、関係部門が連携して、母子に一貫したチーム医療を提供します。



充実した 産前・産後ケア

臨床心理士やソーシャルワーカーと連携し、お母さんや赤ちゃん、ご家族への多面的な支援を行っております。

診療内容などに関するQ&A:

① Q. ウィメンズ、生殖外来は産科外来と診療に違いはありますか？

A. 産科は妊婦を対象とした外来です。妊娠していることが分かっている場合はN棟1F 産科外来にご案内いたします。妊婦健診、産後相談等も受け付けております。不妊治療や不育治療の場合は外来棟4F 生殖外来(4K)、子宮筋腫などの婦人科系疾病の場合は外来棟4F ウィメンズクリニック(4K)のご案内となります。

② Q. 一般小児外来と専門外来では診療に違いはありますか？

A. 原則として、患者様の主訴を確認し、心臓病、代謝系疾患等の診療科が特定できる場合、各専門外来をご案内しております。また風邪等の症状の場合は一般小児外来の受診をご案内しております。事前に診療科へ受診先をお問合せください。

③ Q. 小児科受診には年齢制限はありますか？

A. 原則15歳以下(中学生以下)の患者さんが受診可能です。ただしファブリー病や漏斗胸などの一部の疾患の患者さんにつきましては15歳以上であっても受診可能です。不明点がございましたら、事前に診療科にお問合せください。

診療内容などに関するお問合せ先

Tel. 03-3433-1111(代表)

東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センターのご紹介：

○ 2020年12月1日総合周産期母子医療センター施設指定取得

『人の健全なライフサイクル：発育と発達を守る医療』をコンセプトに本邦初の医科大学附属母子センターとして2001年12月に開設された本センターは、本年2020年1月に重症小児疾患の専門の高度医療と、ハイリスク妊娠出産のための母体集中治療の充実とともに、大学附属病院直結の独立型『母子医療センター』として再スタートを切りました。本センターは『JIKEI MEDICAL Center構想』の一環として、従来分散していた小児系外来・入院診療体制およびCT MRI生理検査などの検査部門を独立型医療センター施設内に集約するとともに、附属病院新外来棟、入院棟、中央診療部門などと有機的に連携する医療を実現しました。

開設とほぼ時期を同じくした新型コロナウイルスパンデミックという全世界的危機に際しては、東京慈恵会医科大学附属病院 母子医療センターにおいてはCOVID-19感染対応診療体制を整備し、東京都要請小児産科症例を積極的に応需するとともに、本来の当センターの使命であるハイリスク周産期小児医療の実践を継続いたしました。このたび2020年12月1日付けて東京都より総合周産期母子医療センター施設指定の取得を達成することができました。皆様方のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

当センターの特色

■ 総合周産期母子医療センターとしての役割

- 母子の安全を最大限考慮した無痛分娩
- 母体胎児集中治療室の新設と新生児集中治療室（NICU）拡充によるハイリスク妊娠、母体搬送の100%応需
- 麻酔科医による無痛分娩の提供

■ 包括的高次小児医療センターとしての医療

- 小児ガンにおける骨髄移植などの小児科重症疾患の内科治療
- 小児集中治療（PICU）の実践
- 小児外科系専門チームによる手術治療

｜ スタッフ

母子医療センター長

佐村 修（産婦人科学講座教授・産科診療副部長）

同副センター長

宮田 市郎（小児科学講座教授、小児科診療副部長）

同副センター長

芦塚 修一（外科学講座准教授・小児外科診療医長）



佐村 修



宮田 市郎



芦塚 修一

｜ 施設認定

- ・東京都周産期医療ネットワーク：総合周産期母子医療センター
- ・日本周産期新生児学会専門医制度研修基幹病院認定
- ・日本集中治療医学会ICU症例登録システム（JIPAD）事業参画
- ・東京都小児がん診療協力病院、日本小児がん研究グループ（JCCG）多施設共同臨床試験参加
- ・日本小児循環器学会修練施設

｜ 総合周産期母子医療センターとしての役割

総合周産期母子医療センターは、母体胎児集中治療室を含む産科病棟、及び新生児集中治療管理室を含む新生児病棟を備え、常時の母体及び新生児搬送受入体制を有して、合併症妊娠、重症妊娠高血圧症候群、切迫早産、胎児異常等母体、又は児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、及び高度な新生児医療等の周産期医療を行える医療施設であります。地域周産期医療関連施設等からの救急搬送を受け入れるなど、周産期医療体制の中核として地域周産期母子医療センターその他の地域周産期医療関連施設等との連携を図るとされています。さらに、今般の施設指定にあたり東京都の中央部だけでなく区南部、区東北部、区西部ブロック内で母体搬送の受け入れが困難だった場合に、各ブロックの総合周産期母子医療センターからの搬送受入に協力することになります。また、港区、中央区の精神疾患合併妊娠褥婦やCOVID-19等感染症対応の妊娠褥婦の受入れを積極的に行い、対応可能な範囲で他ブロックからも受入れを行う役目も担います。

外来診療体制：

産科・周産期部門（P2-）

産科外来	
ハイリスク妊娠外来	産科麻酔外来
胎児診断外来	無痛分娩提供体制
プレコンセプションケア外来	麻酔科医が3N病棟に常駐して、安全で快適な無痛分娩にあたっています。
遺伝カウンセリング外来	
助産師外来	

小児科部門（P3-P4）

小児外来		専門外来
小児一般外来	アレルギー外来	小児腎臓外来
乳児検診・予防接種	小児血液腫瘍外来	未熟児 フォローアップ外来
小児心理外来	代謝・遺伝外来	
	小児内分泌外来	
	小児神経外来	

小児外科系部門（P5-P6）

小児外科専門外来
小児外科
小児脳神経外科
小児心臓外科
小児形成外科※
その他の外科系小児診療※

※外来棟にて診療となります。（P6参照）

診療内容の特色と実績：

産科・周産期部門

Obstetrics / perinatal department

母体胎児集中治療室の新設と新生児集中医療（NICU）拡充とともに母体及び新生児搬送受入体制を整え、合併症妊娠（重症妊娠高血圧症候群、切迫早産等）、胎児・新生児異常（超低出生体重児、先天異常児等）に対するハイリスク周産期医療の充実、無痛分娩の導入など首都圏の総合周産期母子医療センターとしての責務を担います。

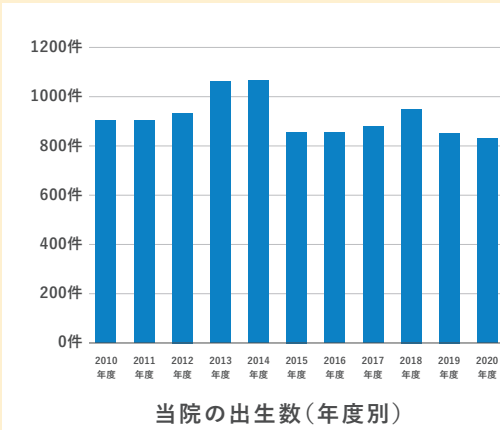


point 01 大学病院であることを活かした、他科との連携による合併症妊娠の最適な治療：ハイリスク合併症妊娠・無痛分娩



佐村 修

母体胎児集中治療室（MFICU）を含む産科病棟および新生児集中治療室（NICU）を備え、母体・新生児搬送の常時受け入れ、母体の救命救急への対応、ハイリスク妊娠に対する医療などを24時間体制で対応しています。大学附属病院と直結し、産科以外にも多岐にわたる専門科があるため、元々ご病気をもちの妊婦様や、妊娠糖尿病や妊娠高血圧症候群などの妊娠に伴う合併症を発症された妊婦様も、安全に妊娠・出産ができるように、他科と連携を取りながら診療にあたります。大学附属病院特有のマンパワーを活かし、夜間休日も産婦人科医3名の勤務態勢を組んでおり安全な医療を提供することが可能です。また産科麻酔科医師による無痛分娩管理にも積極的に取り組んでおり、安全面のみならず妊婦様の満足度も大切に、当院で分娩してよかったと思っていただけるようスタッフ一同努力しております。



point 02 胎児診断から、出生後の新生児治療

胎児の疾患に関しては、周産期専門医・遺伝専門医・超音波専門医が中心となって診療を行っています。胎児の疾患を正確に診断するために、胎児超音波検査、胎児MRI検査、胎児CT検査、羊水検査、絨毛検査、母体血を用いた無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）などを必要に応じて積極的に行っています。羊水検査、絨毛検査、NIPTは遺伝学的検査のため、遺伝診療部と連携し、臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーが遺伝カウンセリングを行った上で実施しております。胎児疾患を有する妊婦様に対しては、新生児科や小児外科、小児循環器科、小児脳神経外科、形成外科など各専門診療科と連携・協力し、出生前の管理を行い、出生後の治療を提供します。

｜ 麻酔部



桜井 康良

診療内容：

麻酔科医による無痛分娩

産科麻酔という何を思い浮かべるでしょうか？無痛分娩が多いと思います。麻酔科医は無痛分娩担当時には産科病棟に常駐しております。麻酔科医は無痛分娩に加えて、定時または緊急帝王切開の麻酔と産科救急と言われる妊娠出産に伴う緊急事態にも産科医・看護師と共同して麻酔科全体で対応することにより、皆様の安全な出産に貢献しております。

特徴：

麻酔科医が産科麻酔外来で事前に説明しています。麻酔科医がチームを組んで担当いたします。硬膜外麻酔を中心として安全で快適な無痛分娩を行っています。

小児科部門では、出生前小児科から思春期・成人に至るまでのあらゆる年齢の患者さんに対応が可能な診療体制をとっております。さらに小児外科、小児脳神経外科、小児心臓外科、形成外科、泌尿器科、整形外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、眼科などの外科系スタッフとの協力体制を基盤においた総合的な小児包括医療を推進しております。当科の診療の大きな特色は以下の通りです。

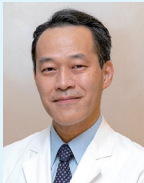


特色

- ☐ 新生児疾患、循環器疾患、悪性腫瘍、遺伝性疾患を4本柱とした高度先進医療の実践
- ☐ 全ての小児科疾患領域を網羅する充実した専門外来（先天代謝異常症、アレルギー、神経、循環器、血液腫瘍、内分泌、腎、膠原病、未熟児フォローアップ、小児精神など）
- ☐ アレルギー医療拠点病院・小児がん診療協力病院としての高度医療の提供
- ☐ 臨床心理士との連携によるこころの医療の推進

＜ 専門分野の紹介 ＞

■ 未熟児・新生児



小林 正久

診療内容：

当センターのNICU部門は、東京都周産期医療ネットワークの一員として、総合周産期母子医療センターとして指定を受け、東京都内および都外近隣地域で出生した入院加療を必要とする新生児の受け入れを24時間体制で行っております。内科疾患にくわえて、外科疾患に関しても小児外科、小児心臓外科、小児脳神経外科、形成外科などと協力を密にしながら、手術などの外科的処置を要する新生児も積極的に受け入れております。また、救命救急的な治療もさることながら、赤ちゃんとそのご家族のQOLの向上を日常の医療の最重要課題と考えております。入院中における病棟内でのファミリーケア、ソーシャルワーカーを交えた社会的サポート、臨床心理士を交えた心理的サポートなど、赤ちゃんをご家族を中心とした包括的、全人的な医療を目標として努力しております。

得意分野・特色：

早産、低出生体重児、呼吸障害、心疾患、新生児感染症、低酸素性虚血性脳症、染色体異常、先天異常、外科疾患人工呼吸器管理、NO吸入療法、低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法や急性腎不全・代謝性疾患に対するなどの血液浄化療法、新生児緊急手術などの各種の高度集中治療にも対応いたします。

■ 小児血液腫瘍疾患



秋山 政晴

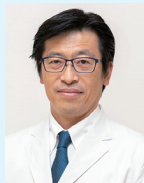
診療内容：

当院は東京都が指定する小児がん診療協力病院で、小児白血病に加え、小児外科系診療科との連携のもと、小児脳腫瘍や小児固形腫瘍の集学的治療も積極的に行っています。また、日本小児がん研究グループ（JCCG）の多施設共同臨床試験に参加しており、本邦において標準化された最新・最善の治療を提供しています。当院では大学病院の特色を最大限に生かし、成人領域の最新医療技術や科学的エビデンスを集結し、最善の小児・AYA世代がん医療を実践しております。特に機能予後を鑑みたハイレベルな手術や自家腫瘍細胞と樹状細胞を用いた新規融合細胞治療などの免疫治療にも力を入れております。また、患者さんやそのご家族を治療チームの中心におき、子どものこころや、ご家族のケアも、コメディカルスタッフや各専門家によるサポートも積極的に行っております。

特色：

発達支援、保育介入

■ 小児アレルギー疾患



田知本 寛

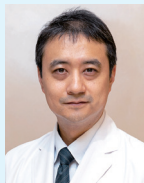
診療内容：

小児アレルギーチームは食物アレルギー・アナフィラキシー・アトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎の診断・治療を担当し、アレルギーを持つ子どもへ全人的診療を行っています。21世紀に入り気管支喘息の子どもたちは治療法の発展と適切な管理により入院率が減少し、運動を含めた日常生活の制限なく生活することが出来るようになりました。一方、食物アレルギーは20世紀後半から増加し、東京都の調査では3歳児の15%に食物アレルギーがあると報告され、非常に多いアレルギー疾患です。近年原因となる食物抗原も変化しており、我々のチームは食物アレルギーをもつ子どもとその家族の生活を第一に考え個々に合わせた診療で食物アレルギーの克服を目指しております。食物アレルギー児への離乳食のはじめ方やすすめ方の相談も可能です。また、食物アレルギー予防法として我々は出生直後からの介入方法を見出しました。そして花粉などによるアレルギー性鼻炎・結膜炎は発症の低年齢化が見られています。当科ではこれまでの治療法に加え、スギやダニの舌下免疫療法も実施しております。また、アトピー性皮膚炎に対して、実際に動画を観ながらスキンケア指導をおこなっております。最後に、アレルギー症状に関して日常的に悩まれていることについて、チーム全体で丁寧にご説明いたします。

得意分野・特色：

食物アレルギー・アナフィラキシー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息・アレルギー性鼻炎・アレルギー性結膜炎の診断・治療

■ 小児循環器疾患



安藤 達也

診療内容：

小児循環器チームでは先天性心疾患を中心に、後天性心疾患（川崎病冠動脈瘤、心筋炎、心筋症、不整脈など）の診断・治療を行っています。近年、胎児期に先天性心疾患を診断することが可能となり、産科と連携しながら胎児診断および胎児期からの循環器管理を行っており、心臓外科とも連携し適切な娩出時期の決定や出生時の治療対応を行っております。また手術が必要な患者さんに対しては、麻酔科や看護師、臨床工学士の方々と共にチームとして一丸となり周術期の管理を行っております。心疾患の一部には心臓カテーテル検査が必要であり、当院では2000年以降、1,000例以上の患者さんに心臓カテーテル検査・治療を施行しております。成人になられた患者さんに対しても循環器内科と連携し、生涯にわたる継続的なサポートを行っております。また、埼玉県立小児医療センター循環器科・心臓血管外科とも連携しながら、日本小児循環器学会専門医らが診療に従事しております。

■ 先天代謝異常疾患



大石 公彦

診療内容：

先天代謝異常症とは私たちの身体にとって大切な酵素などのタンパク質が生まれつき作れなかったり、その機能が不十分であることによって様々な症状を引き起こす疾患群です。新生児マススクリーニングで診断されるだけでなく、小児期から成人期に発見されることもあります。慈恵医大小児科では経験豊富な医師たちが、遺伝学的検査や酵素補充療法などの先進的な診断技術や治療法を取り入れながら、先天代謝異常症の診断、治療を行っております。様々な症状で起こる急性期や慢性期の合併症のケア、長期的な経過のフォローアップ、遺伝学的なアセスメントなどにも対応した包括的な医療を提供しております。

特色：

酵素補充療法、シャペロン療法、基質合成阻害療法などの先進医療、生化学・遺伝学的検査を用いた新生児マススクリーニング陽性症例や診断困難症例などの確定診断

■ 小児神経疾患



日暮 憲道

診療内容：

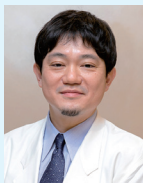
小児の神経疾患は非常に多彩で、脳・脊髄のみならず末梢神経や筋肉の疾患も含まれ、主要兆候としてはけいれん、てんかんがある、気になる動きをする、頭痛、力が弱い、体を動かさない、歩けない・歩き方がおかしい、意識や反応が悪い、寝ている時に気になる症状がある、発達が遅れている、言葉がでない、集団に上手く適応できない、言動や行動がおかしい、勉強についていけない、などさまざまです。

当外来ではお困りの症状について、その軽重にかかわらず丁寧な問診を心がけ、専門の評価を行ったうえでお子さまにとってよい状況となるよう努めます。疾患が多岐にわたるため、必要な場合にはほかの専門外来や部門、医療機関と密な連携をとり、包括的に診療いたします。

特色：

てんかん、てんかんを引き起こす各種基礎疾患（脳性麻痺、結節性硬化症、脳形成異常、代謝異常症）等

■ 小児集中治療部門



飯島 正紀

診療内容：

小児集中治療室（PICU）は小児病棟内に併設されている重症小児に特化した集中治療ユニットです。2019年末までは年間入室患者数100例程度でしたが、今後体制の拡充を図り、200例の入室を予定しています。小児心臓外科、小児外科、小児脳神経外科などの術後が大部分を占めますが、小児内因性疾患の増悪による全身集中治療も実施しています。

得意分野・特色：

経皮的肺補助（PCPS）・体外式膜型人工肺（ECMO）や透析、血漿交換などの侵襲的治療も行うことが可能です。2019年1月からは日本集中治療医学会ICU症例登録システム（JIPAD）事業にも参画しており、データの提供のみならず医療の質の向上および日本の集中治療医学の発展をめざしています。

■ 小児内分泌疾患



宮田 市郎

診療内容：

内分泌疾患とは、主に脳下垂体・甲状腺・副甲状腺・膵臓・副腎・性腺（精巣や卵巣）・骨・脂肪細胞などから分泌されるホルモンの量あるいは質の異常によって起こる病気であり、成長の障害を含め、さまざまな症状が認められます。具体的には成長ホルモン分泌不全性低身長症、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症、甲状腺疾患（先天性甲状腺機能低下症、橋本病、バセドウ病など）、副甲状腺疾患、糖尿病、副腎疾患（先天性副腎皮質過形成症、アジソン病など）、性腺疾患（思春期早発症、性腺機能低下症）、性分化疾患、肥満症などがあげられます。さらに染色体異常（ターナー症候群やブラダー・ウィリー症候群など）や骨系統疾患（軟骨異栄養症）も含まれます。内分泌外来ではこれらの疾患の診断・治療を行っております。

得意分野・特色：

低身長症、甲状腺疾患、思春期早発症などの診断・治療

■ 小児腎疾患



平野 大志

診療内容：

腎疾患は、さまざまな全身性疾患の初期症状として現れることも珍しくありません。なかなか原因の分からない日常生活におけるさまざまな症状が尿検査をきっかけとして確定診断に結びつくこともあります。そのような腎臓を窓口とした全身管理が私たち腎臓専門外来の役割と考えています。私たちの外来では、健診や学校検尿などの尿検査で血尿や蛋白尿を指摘されたお子さまだけではなく、胎児期から先天性腎尿路異常を疑われているお子さまから、夜尿、昼間尿失禁などで学校生活にお困りのお子さまやご家族まで、さまざまなきっかけで腎臓の病気を発見されたすべての患者さんを対象としています。

得意分野・特色：

検尿異常、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、夜尿（夜のおもらし）、昼間尿失禁（昼間のおもらし）、頻尿、尿路感染症、泌尿器科疾患（先天性水腎症、包茎治療など）

すべての外科系疾患に対する専門外来と多部門診療チームによる365日24時間急患対応を実践

母子医療センターでは小児外科系専門診療部（小児外科・小児脳神経外科、心臓外科、形成外科）を擁するとともに、小児・新生児集中治療室（PICU/NICU）やその他の外科系診療科（泌尿器科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、麻酔科）など関連部門との連携により小児の外科手術を要するすべてのお子さんに対するグループ外来診療・チーム医療による入院治療を行なっております。



特色

- | | | |
|---|---|----------------------|
| ■ 小児・新生児の緊急手術：365日24時間緊急体制を整えて対応しています。 | ■ グループ診療 | ■ 小児循環器一心臓外科外来 |
| ■ 内視鏡手術（小児外科、小児脳神経外科）の積極的導入 | ■ 『あたまとかおのかたち外来：頭蓋顎顔面外来』（小児心臓外科、小児循環器科） | |
| ■ 出生前診断と新生児期外科治療：超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制を完備しています。 | ■ 『ヘルメット矯正治療外来』（形成外科、脳神経外科） | ■ 小児泌尿器疾患（小児外科、泌尿器科） |
| | ■ 二分脊椎・水頭症外来（脳神経外科、整形外科、泌尿器科） | ■ 小児脳脊髄腫瘍 |

小児外科



芦塚 修一

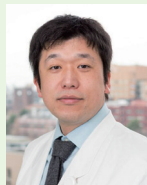
診療内容

- 胎児、新生児、乳幼児、学童などの15歳以下の頭部・呼吸器・消化器・泌尿器および婦人科疾患などを広く対象
- 異物誤飲、精巣捻転、腸重積症、鼠径ヘルニア嵌頓、急性虫垂炎などの急性疾患は24時間体制で診療
- 超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制
- 小児がんに対する高度な診療を提供する医療機関として「東京都小児がん診療病院」に認定

得意分野・特色

- 出生前診断された新生児疾患に対する手術
- 漏斗胸に対するNuss手術（低侵襲手術：日本有数の手術数）
- 内視鏡（胸腔鏡・腹腔鏡・膀胱鏡）手術
胸腔鏡（漏斗胸・肺切除・縦隔および横隔膜手術）、腹腔鏡（噴門形成術・アカラシア手術・鎖肛・ヒルシュスプルング病など） 鼠経ヘルニアでは腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術（LPEC）、膀胱尿管逆流症（VUR）ではDeflux注入を実施しています。
- 小児泌尿器手術
水腎症、VUR、停留精巣、その他
- 舌小帯診療
乳幼児の舌小帯短縮症に対する手術治療を積極的に実施しています

小児心臓外科



益澤 明広

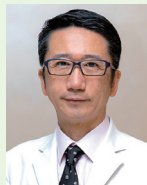
診療内容

- 新生児・チアノーゼ性心疾患を含むすべての先天性心疾患の根治手術・段階的姑息手術
- 小児・新生児の緊急手術の患者さんの受け入れは365日24時間緊急体制を整えて対応
- 超低出生体重児に対してはNICU内での手術体制（体重1kg未満最小340gの低出生体重児動脈開存症を含む）
- 成人先天性心疾患初回・再手術

得意分野・特色

2018年より術前診断から術後超急性期までの周術期管理全体を通じた小児循環器科、PICU、小児麻酔科、手術室など部門横断的なチーム医療を推進しています。

形成外科



宮脇 剛司

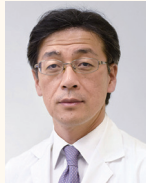
診療内容

手足先天異常や口唇、顔面の先天異常（唇顎口蓋裂、頭蓋骨縫合早期癒合症、耳介先天異常を含む頭蓋顎顔面領域の先天異常疾患）、外傷や変形、眼瞼下垂症、巨大母斑の治療など、広い範囲に渡り治療を行っています。診断や治療のために小児科、耳鼻咽喉科、歯科・矯正科、眼科、放射線科などと連携してチーム医療を行っています。必要に応じて臨床心理士による発達心理評価や、遺伝カウンセリングを行います。

得意分野・特色

- 頭蓋顎顔面の先天異常疾患に対する治療
アペール症候群、クルーゾン症候群、ファイファー症候群など頭蓋骨縫合早期癒合症の治療（グループ診療）
唇顎口蓋裂に対する各成長段階に合わせた必要な手術治療
- 手足先天異常3,500例以上の経験と術後の長期経過観察・評価に基づく四肢先天異常の治療
多指症・合指症をはじめに多彩な先天異常に対する外科治療 とリハビリテーション科、作業療法士（ハンドセラピスト）との密接な連携による治療効果向上

整形外科



斎藤 充

診療内容

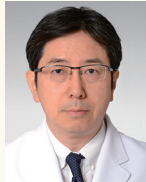
小児期における整形外科領域全般の先天異常の治療

- 関節疾患：先天股関節脱臼
- 外反母趾、先天性内反足、麻痺足など足部病変
- 二分脊椎、脊椎側弯変形など整形外科領域の診療
- 外傷の治療：手・肘の骨折、脱臼、神経・血管・腱断裂、神経障害など

得意分野・特色

- 二分脊椎に伴う下肢の麻痺・筋力低下、下肢の変形、股関節脱臼、脊椎側弯変形など脊椎疾患の診療
- 小児股関節疾患（先天性股関節脱臼とその治療後の遺残障害、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など）の治療

眼科



中野 匡

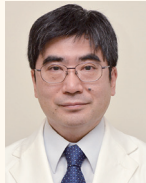
診療内容

小児期の目の病気は早期発見・早期治療が重要です。未熟児網膜症のお子さまに対する診療や診断の難しい小児期の網膜変性や遺伝性疾患の診療にも力を入れており、あらゆる眼科疾患に対して、満足度の高い最先端医療をご提供できるように、高度専門知識を持ったスタッフが日々切磋琢磨して研究・臨床を行っています。

得意分野・特色

- さまざまな網膜病変に対し最先端の心理物理学的・電気生理学的手法を用いて病態に応じた治療・生活指導
- 国の指定難病である難治性視神経症の診断・治療および病態解明に向けた研究
- 斜視弱視外来
- 未熟児網膜症部門
- 涙器・眼形成部門（先天鼻涙管閉塞・先天眼瞼下垂など）

皮膚科



朝比奈 昭彦

診療内容

- アトピー性皮膚炎・乾癬に対する標準治療と生物学的製剤の導入
- 神経線維腫症の定期的診察、手術
- 疣贅に対する液体窒素療法、接触免疫療法、グルタールアルデヒド治療
- 血管腫、太田母斑などアザに対する保険診療およびシミに対する自費診療

得意分野・特色

- 難治例への生物学的製剤の積極的使用・神経鞘腫症に対する豊富な手術経験
- 各種アレルギー検査、紫外線照射装置、各種レーザー治療などの検査・治療に対応しています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科



小島 博己

診療内容

当センターでは難聴の早期発見と療育を目的に、聴覚スクリーニング検査を行っています。当院は難聴児を早期発見する体制が整備されており、新生児聴覚スクリーニング後の精密聴力検査機関に日本耳鼻咽喉科学会より認定されています。また、中耳炎や副鼻腔炎をはじめとする炎症性耳鼻科疾患や睡眠時無呼吸症候群に対する手術加療も積極的に行っていきます。特に、慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎に対する聴力改善手術や難治性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術は世界のトップレベルの技術と症例数を誇ります。睡眠時無呼吸症候群に対する手術においても、アデノイド切除術をはじめとし新しい手術方法を導入し治療にあたっております。

得意分野・特色

聴力スクリーニング検査、自動簡易聴力検査および精密聴力検査、新生児聴覚スクリーニング精密聴力検査、聴覚発達検査
原因診断：画像検査（CT、MRI）、遺伝子検査、療育

泌尿器科



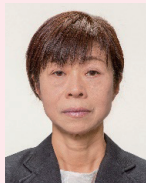
穎川 晋

診療内容

小児泌尿器科疾患や神経泌尿器分野における診断と治療

得意分野・特色

- 二分脊椎グループ診療
二分脊椎のお子さんに対して、小児脳神経外科と共同で二分脊椎の手術前、手術後の膀胱機能・形態検査（ビデオウロダイナミクス検査）外来における導尿（排尿ケア外来）や洗腸（排便ケア外来）指導しています。
- 膀胱尿管逆流症による腎盂腎炎予防
小児外科と共同でデフラック注入を実施

看護部長
玉上 淳子

産科看護

外来の妊娠早期から退院後の産褥期まで、継続したかわりを行っています。疾患や治療に伴う様々な苦痛や不安に対して、女性のライフサイクルを踏まえた細やかな対応ができるよう日々研鑽を重ねています。患者さんの回復ができるだけ早く進むこと、治療を続けながらも患者さんの望む生活が送れることを目標に、医療チームが連携をとりながら、患者さんの支援を行っています。産後は沐浴指導や授乳特に母乳哺育への自立を高めるための「母児同室制」を取り入れています。退院後の生活指導は集団指導のほか、お母様の状況をふまえた個別指導も取り入れています。助産師・看護師スタッフが一丸となって妊婦さんとその家族そして新しく誕生した命を大切に関わっていきます。

小児看護

小児科一般床では、児の病状と成長・発達に合わせて病室を調整しています。入院という体験は苦痛を伴うものですが、安楽に過ごせるよう、発達段階に合わせた説明や遊びを通して看護しております。また、リハビリテーション、保育士の計画的な介入、在宅に向けた医療チームによる介入を実践しております。NICU、GCUでは早産低出生体重児の呼吸・循環の早期安定をめざすとともに、成長発達を見据えたディベロップメンタルケアやカンガルーケアを行っています。また、小児専門看護師や新生児集中ケア認定看護師による知識と技術の教育指導により、根拠に基づいた重症児の看護ケアを実践しています。

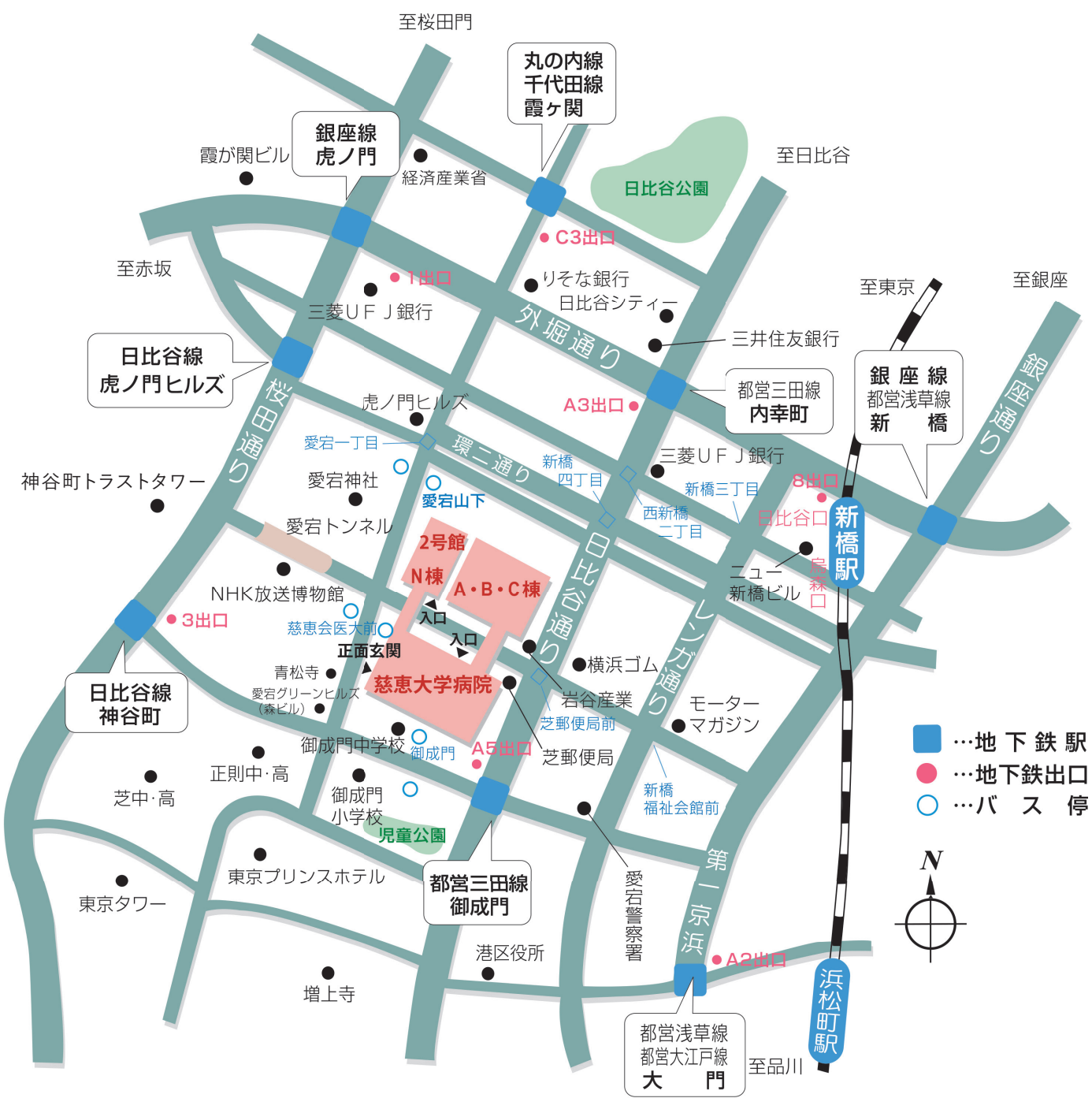
交通のご案内:

電車でお越しの方

- 都営三田線 御成門駅(A5出口) 徒歩約3分
- 日比谷線 神谷町駅(3番出口) 徒歩約7分
- 虎ノ門ヒルズ駅(A1出口) 徒歩約9分
- 銀座線 虎ノ門駅(1番出口) 徒歩約10分
- 銀座線 都営浅草線 新橋駅(8番出口) 徒歩約12分
- JR 新橋駅(烏森口) 徒歩約12分

バスでお越しの方

- 東98系統 東京駅南口→慈恵会医大前←等々力操車場 (約20分) (約50分)
- 港区コミュニティバス「ちいばす」 新橋駅～田町駅東口(芝ルート) ※新橋駅から慈恵大学病院まで約15分 「慈恵医大病院入り口」下車



診療案内:

診察・受付時間、休診日

診療時間:月～金曜日	午前	午後	診療時間:土曜日	午前	午後
診療開始	9時～	13時30分～	診療開始	9時～	13時30分～
受付時間	8時～11時	11時～15時	受付時間	8時～11時	土曜日の午後は 受付を行っておりません

休診日

日曜・祝日、大学記念日(5月1日、10月第2土曜日)、年末年始(12月29日～翌年1月3日)
※診療科によっては、診療時間が異なる場合がございます。外来担当医スケジュールを合わせてご確認ください。

母子医療センターへの患者さんのご紹介について:

当院では、ご来院前に紹介元の医療機関(かかりつけ医)からFAX・Web予約をされることを推奨しています。 ※Web予約は母子医療センターの小児系診療科一部のみ予約が可能です。
患者さんが当院での予約受診を希望された際は、かかりつけの医療機関からの予約申込が必要となります。患者さんから予約取得のご相談がありましたら予約申込のご協力をお願いいたします。予約を済まされている方は、当日の受付がスムーズになります。
患者さんご自身の初診の予約は受け付けておりませんので、予約をお持ちでない方は直接お越しください。
検査や点滴が必要な急性期疾患の小児、小児系専門外来への受診の際は当院医療連携室経由で予約をお願いいたします。紹介状ご持参のみの際は、事前に母子医療センターにご連絡のうえ、ご来院の日時と担当医師を調整させていただきます。

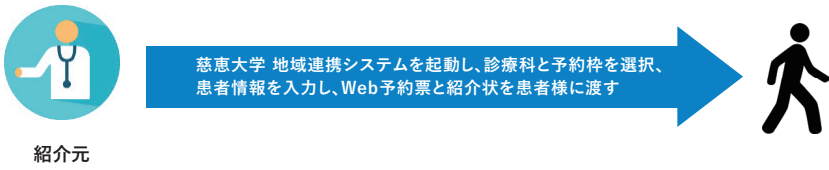
1 FAX予約

FAX予約はいずれの医療機関からでも予約可能です。詳細については右記URLをご覧ください。 <https://www.hosp.jikei.ac.jp/medical/offer.html>



2 Web予約

Web予約は事前の登録・設定が必要になりますので、詳細については右記URLをご覧ください。 <https://www.hosp.jikei.ac.jp/medical/offer.html>



予約に関するお問合せ先

Tel. 03-5400-1202 (直通)
受付時間:月～金曜日 09:00～18:30、土曜日 09:00～17:00

休日: 日曜日、祝祭日・年末年始(12/29～1/3)、
大学記念日(5/1・10月第2土曜日)

ホームページアドレス <https://www.hosp.jikei.ac.jp>

